

## 2010. 4.18 事務所開きあいさつ

おはようございます。補選で当選させていただいて1年で、はや2期目に挑戦します。今度は補欠選挙と違い、36人位で30の議席を争う選挙、地縁血縁いろんな繋がりが入り組んだ選挙、一票が重たい選挙ということで、まず地元だという思いから、葭津を歩いています。一軒一軒飛ばさずに歩いているのですが、昨年とかなり反応が違うんですね。

昨年は初めて立候補ということで、私もおそろおそろ歩いたし、かちんこちんでもあったので、あまり話しこめなかったんです。今年は私がなんといってもたくさんの方の支持をいただいて当選した現職議員ということもあり、あっちこっちで話が弾みます。

葭津からもうひとり古い議員が立たれておりますが、昨年は大変反応の固かったその人の一族や隣の家でも、「介護保険は高いのに、何も返りがない。あれは詐欺だわあ」と話しがはずむ。「去年のリーフでよんだ。私も看護助手しとった。頑張りないよ。」なんてことになって、私の方がびっくりです。

自民党と自ら名乗る人も、「自民党はばらばらで、もうどげだいならんわ。まあ、あんたやちゃ頑張りないやい。」と握手。

地元自治会は今年も、その古い議員だけを推薦すると決めたのですが、そんな自治会のことを「新しいもんはものも言わしてもらえん自治会が厭で」と、「だ・か・ら、ほんとに頑張っしてほしいんです」と、「この前街宣に車の中から手を振った」と、これまで話す機会もなかった人から言われてびっくりです。

世の中変わり始めてると感じます。変化は一様ではなくて、捻じれていたり、古いままだったりしますが、この1年の間に総選挙での自公政権の敗北という大きな変化があつて、その後に登場した鳩山政権の問題だらけの実態に呆れかえるという体験もあつて、みんなの政治への関心は、やはり高まっています。

どんどん対話すればするほど変わるという情勢です。

米子市の市政はあいかわらず、旧自公政権のしいた構造改革路線の上を走っています。財政難だからと、正職員を減らし、民間へ業務委託し、福祉を削り、国保や介護保険の負担に耐えかねる市民の実態を知ろうともしない。

この道の延長に米子の経済回復も発展もないのに走り続ける。

そして、それにストップをかけるのは、ほぼ共産党議員だけです。たまに「未来」という民主党がふたりいる会派がついてくる。しかし鳩山政権と同じ「今廃止すると混乱する」という言い分で、後期高齢者医療制度の即時廃止の陳情などは不採択にしています。

この1年、私は質問もしない議員に呆れ、質問の中身が市民の実態や切実な要

求に合っていないことに怒りました。

そして、いまだムダな公共事業の典型のような大橋川拡幅事業を、国、県、市が一体となって推し進めることに怒ったり、

美保基地の米軍基地化に平然としている市当局や、「米軍基地を返上することなど出来るはずがない」「安保や地位協定があるから仕方ない」となんの痛みや恐れも感じないかのような議会での質疑にあきれたりしています。

これら予期せぬ問題もつぎつぎおこります。

こんな時だから日本共産党の 3 議席が大切です。そしてその 3 人の議員に繋がる党の全ての人を力を合わせて、いろんな条件、境遇があり、この不況下で党员や後援会のみなさんも生活が大変になっており、そこを押しての活動は困難も多いのですが、そこを力出し合って乗り越えたい。

困難な状況から自殺された同志のご家族と、先日初めて出会って話したのですが、救えなかった悔しさを言うと、「いや共産党や組合の仲間と出会ってからすっかり明るく変わって、ほかの家族も変わってきた。よい出会いがあったことを喜んでいます。」と言われ、少し心が軽くなりました。

困難は軽くなるわけではないが、展望のある生き方は明るいのでしょうか。

どうか皆さん、ご一緒に、市議選の勝利を勝ち取り、参院選で前進しましょう。みんなが当たり前にものを言ったり考えたり暮らしたり出来る、そういう政治を開いていきましょう。

わたしは全力で頑張ります。どうか大きなご支援をお願いします。